



# 大阪プロバスクラブ

会報 第400号

2025年1月15日発行

Monthly Bulletin of

The Probus Club of Osaka

- 例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111  
 例会日：2022年7月より毎月第2水曜日12時～14時  
 ○創立2001（平成13）年7月9日創立記念式7月16日  
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ  
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ  
 ○会長：山下恵司 ○幹事：川端崇且 Tel：090-2702-7212  
 ○事務局：（幹事宅）〒562-0044 箕面市半町2-5-23  
 ○会報担当：西宮富夫 [pxi06603@nifty.com](mailto:pxi06603@nifty.com)  
 ○大阪プロバスクラブ会報：<http://osakapurob.exblog.jp/>  
 ○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>  
 （R6年8月の第11回総会で決定された新体制）  
 会長 馬場康博、幹事長 中田雅昭、会計 佐々木浩一  
 ○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版：  
<http://probuscent.exblog.jp/>

## R6年12月上旬～R7年1月上旬までの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 233号	11月25日ヌーボーとワインを楽しむ会、ゲスト（声楽家万丈目佳奈、ピアノ万丈目綾子姉妹）他
東京八王子	プロバスだより 348号 349号	348号：東京日野プロバスクラブより来賓6名、歌声を楽しむひと時、シニアダンディーズ活動報告（団長立川富美代）、他 349号：私の研修会報告（国立歴史民俗博物館企画展「歴史の未来」：記録池田ときえ）、他
神戸北	7年1月例会案内	12月2日忘年会（須磨和風荘）会員6名+ゲスト5名=11名参加、【ひとこと】監崎章員、他
大阪	会報 第399号	近況報告「国際工作機械見本市へ行ってきた、他」山下恵司会員、同「箱根ひらまつホテル&リゾート仙石原へ行ってきた」田中浩三会員、他
北九州	つながり 第222号	11月19日例会・創立25周年記念式典・祝賀会・会食（池田みどりジャズコンサート）、老化脳にならないために（吉田信雄会員）他
	LINK25号	創立25周年記念誌会報LINK25号（ページ数が多いので、表紙・目次・TOPページのみ掲載）

今回 第401回 新年例会 2025年1月15日（水）  
 会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

## ●大阪プロバスの歌（作詞：渡辺孟 補詩：田村徳郎）

- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時  
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
- ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ  
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
- ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気  
世界に広がる和の願い 明日も愉快地に生き抜こう

- 『いちがつついたち』  
 『一月一日』（作詞：千家尊福、作曲：上真行）  
 年の始めの ためしとて  
 終りなき世の めでたさを  
 まつたけたてて かどごとに  
 祝ふ今日こそ たのしけれ

前回 第400回 Xmas 例会 2024年12月18日（水）  
 会場：ホテルモントレ大阪 16：30～19：30

## ◎Xmas 例会

- 司会進行：伊丹谷五郎会員
- ソング：吉川栄子会員 ●『たきび』
- 山下恵司会長挨拶、
- 川端崇且幹事報告
- 出席報告：委員長より会員・ゲスト計29名との報告
- 誕生日：（12月）左から、山下恵司会長、永田慎一会員、川端崇且会員、（11月）浅井良佑会員。



- 広報委員会報告：12月中旬、東京多摩プロバスクラブ 広報委員長伊藤様より下記ご依頼をいただきました。  
 「世界のプロバスクラブ交流サイトとして、プロバスグローバルという唯一のコミュニティがあり、私もその一員として登録しています。（中略）そこをお願いですが、プロバスグローバルのニュースレター2024/12を貴クラブの皆様にご覧いただきたいのです。」（「PROBUS Global」で検索→公式HP→Newsletter）

## （参考）「PROBUS Global」Newsletter 投稿リスト

国名	州・都市	クラブ名等
インド		ハイデラバードプロバスクラブ
オーストラリア	クイーンズランド州	ケンモア・ガーデンズプロバスクラブ
イギリス	ダーラム	ダーラム中央プロバスクラブ
カナダ	オンタリオ州	メンズプロバスクラブ
ニュージーランド		カピティコーストプロバスクラブ
ベルギー		プロバスベルギー（オランダ・フランスのクラブをゴルフに招待）
オーストラリア	ニューサウスウェールズ州	プロバスサウスパシフィック
イギリス	アバディーン	（クロアチア：ヴェラ・ルカ旅行記）

## ◎Xmas パーティ 司会浅山起久子親睦委員長

- 食事タイム（乾杯：次ページの通り）
- ショータイム（北岡樹さん）
- お客様より一言、
- ビンゴゲーム、
- 合唱、閉会挨拶（田中浩三会員）  
 （LINEより：他クラブの方も、美味しいお食事でも楽しかったとの嬉しい御言葉いただきました。）

○乾杯：箕面千里中央ロータリークラブ増田俊会長  
 (会報担当：ビールで乾杯。ワインなど酒類は写真の通り多かったのですが、2本のワインのみ紹介します。)

(Xmas 例会で提供したワイン・日本酒・ウイスキー)



ワイン1. ブルゴーニュ：ポール・ボーデ ボジョレー・  
 ヴィラージュ ヌーヴォー



ワインラベル



生産地ボジョレー地区

生産者：ポール・ボーデ社

(以下、文はきのくにやりカズ記事「ポール・ボーデ ボジョレー・ヴィラージュ ヌーヴォー」より抜粋引用)

ポール・ボーデ社では除梗(じょこう)100%。これは、フルーティで果実味をしっかりと感じられるスタイルを作るために行っています。比較的規模の大きい会社で、徹底した品質管理を行っています。ボジョレーの優れた造り手ポール・ボーデ社が選りすぐりの39の地区で採れたブドウだけを使用して造る特別なニューヴォー。

生産地：ボジョレー地区

(以下、分・画像ともエノテカ Online 記事「ボジョレー・ニューヴォーとは？」より引用)

ボジョレーとは、フランス・ブルゴーニュ地方のボジョレー地区のこと。ニューヴォーとは、フランス語で「新しい」という意味で、その年に収穫したブドウを使用して造られる新酒のことを言います。つまりボジョレー・ニューヴォーとは、ボジョレー地区で造られる、ワインの新酒(ニューヴォー)のことなのです。

ワイン2. カリフォルニアワイン：カレラ セントラル  
 コースト シャルドネ



ワインラベル



生産地セントラルコースト

生産者：カレラ

(以下、文・画像引用元：ワイン通販エノテカ「セントラルコーストシャルドネ」より)

カリフォルニア州 セントラル・コーストに本拠地を置くカレラ は、カリフォルニアのピノ・ノワールにおける伝説的な醸造家、故ジョシュ・ジェンセン氏が1975年に創業したワイナリーです。ドメヌ・ド・ラ・ロマネ・コンティなど名だたるワイナリーで働いた経験から、冷涼な気候でブルゴーニュと同じ石灰質の土壌を持つマウント・ハーランの土地を購入。(中略)現在、カリフォルニアを象徴するワイナリーのひとつとしての評価を獲得しています。

生産地：セントラル・コースト

太平洋沿いにあり、サンフランシスコからサンタバーバラに及ぶ地域に位置するセントラル・コースト。内陸側は温暖で乾燥しており、海岸地域は寒流の影響を受けて冷涼と、地域によって異なる特徴をもち、それぞれ個性のあるワインが生産されます。(中略)オー・ボン・クリマ(サンタ・マリア・ヴァレー)やカレラ(マウント・ハーラン)などカリフォルニアの黎明期を支えた偉大な生産者が多く本拠地を構えています。

◎近況報告「12月15日、南座へ行ってきた。」吉川栄子会員の友人

★観劇メモ

12月15日まさに討入の翌日京都南座顔見世「真山青果作元禄忠臣蔵仙石屋敷を観劇しました。討入の翌日大石内蔵助が、幕府へ想いを語る重厚な台詞劇を人間国宝、片岡仁左衛門が演じる。赤穂浪士のそれぞれの想いが胸に迫る、素晴らしいお芝居でした。



(ご友人提供写真)

●元禄忠臣蔵(真山青果 1934年~1941年作)

(以下、元禄忠臣蔵/歌舞伎演目案内より抜粋引用)

『元禄忠臣蔵』は記録にある限りの史実に基き、さらに作者の歴史観や人間観が深く掘り下げられ練り上げられて、極めて文学性の高い作品となっているが、一方で、歌舞伎の持つ娯楽性は少ないといえよう。

内容も事件の発端である「松の廊下の刃傷」や、復讐である「吉良邸討入り」そのものの場面は登場せず、その周辺や裏側で様々な人物がそれをどう捉え、どのように行動していったかという描き方に終始している。

<仙石屋敷あらずじ>

幕府大目付、仙石伯耆守(ほうきのかみ)の屋敷。時は少し戻って15日の朝、屋敷の表には異様ないでたちの浪人体の者が二人、先ほど仇討ちを果たした浪士吉田忠左衛



門と富森助右衛門です。伯耆守は家中一同ひたすら天下のお裁きを待つという、その潔さに感心して二人を丁重に扱います。夜を迎えると泉岳寺から浪士たちが屋敷に連れて来られ、一同と対面した伯耆守は改めて仔細を尋ねます。そして「短慮のための刃傷ではござりませぬ。家を捨て身を捨て、家中を捨てても斬り伏せたい一念」「われらはただ、故主最後の一念を継届けたるのみ」との内蔵助の言葉に心を打たれるのでした。いよいよ夜が更けると浪士たちは毛利、水野、松平、細川の四家に分かれ、お預かりの身となってゆきます。

(会報担当:「忠臣蔵 Wikipedia」によると、「忠臣蔵」という題名の由来は、蔵一杯の忠臣という意味や、大石内蔵助の「蔵」にかけているなどとされるが、定かではない。仮名手本中心蔵以降、赤穂事件を扱った創作物は**忠臣蔵もの**と呼ばれることになる、とのこと。)

### ●15代目片岡仁左衛門(人間国宝)(以下、Wikipedia)



1944年3月、  
大阪市に生まれる。

1998年十五代  
目片岡仁左衛門  
を襲名。

2015年、重要  
無形文化財(人  
間国宝)。

#### ★プロフィール

十五代目片岡仁左衛門(かたおかにぎえもん)1944年生(昭和19年)は、歌舞伎名跡「片岡仁左衛門」の当代。日本芸術院会員、重要無形文化財(人間国宝)。本名及び旧芸名は片岡 孝夫(かたおか たかお)。半世紀近くにわたって本名のまま舞台に立ち続けていたので、大名跡「仁左衛門」を襲名した今日でも「孝夫」と呼ぶ人は多い。

#### ★元禄忠臣蔵仙石屋敷の片岡仁左衛門

(以下、仁左衛門、南座「吉例顔見世興行」へ向けて | 歌舞伎美人より引用)

真山青果作品の特徴の一つに、**長ぜりふ**があります。「言葉伝えるだけでなく、内蔵助の心情を伝えることを心がけていますね。せりふを100喋っても印象に残るのは2つ、3つぐらいですから、いかにお客様の心に響くように訴えるか。訴えたいのは内蔵助と四十七士の心情であって、討ち入りまでの段取りなどについて長く喋ってもそれほど響かない。そのあたりはある程度カットして、テンポよくすることもあります」と、表現の工夫に言及します。

#### ★最後の忠臣蔵の仁左衛門

(以下、ORICON NEWS 片岡仁左衛門十五代目襲名以来の映画出演「最後の忠臣蔵」で大石内蔵助役より引用)

同作で内蔵助(片岡仁左衛門)は、討入り前夜に瀬尾孫左衛門(役所広司)と寺坂吉右衛門(佐藤浩市)、それぞれに**密命**を下す。寺坂には討ち入りを後世に伝え、諸国に散った赤穂浪士の遺族たちの援助を命じた。瀬尾には生まれたばかりで母を亡くした**隠し子・可音の養育**を託していた。

江戸時代から300年にわたって語り継がれてきた討ち入りのリーダーとは別の、娘の将来を按ずる“父”としての素顔にスポットを当てた物語で、仁左衛門は新たな内蔵助像を創り上げている。

(会報担当:映画「最後の忠臣蔵」は録画で何度も見ているが、討ち入り前夜、内蔵助が瀬尾孫左衛門に「可留(と生まれてくる子)を守ってやってほしい」と頼む場面は迫力あるものだった。仁左衛門には戦い向きの感じはしなかったが、強い印象を受けた。今回の元禄忠臣蔵仙石屋敷観劇メモでは「**重厚な台詞劇**」とあり、仁左衛門には強い迫力があつたと想像する。)

#### ●南座「まねき」の書体 勘亭流

(以下、文・画像ともストアカ**勘亭流書家川端耕司**記事「学校では教えてくれない書道“勘亭流”」より引用)



**勘亭流**とは安永八年(1779)、経営不振に陥っていた中村座の座主・九代目中村勘三郎の依頼により、(御家流)書道指南・岡崎屋勘六が『御鼻頂年々曾我(ごひいきねんねんそが)』の大名題看板を揮毫した所、たちまち勘六の書は町の人々の評判を呼び、中村座の興行は大入満員続きとなり経営が右肩上がりに良くなった。この時、勘六の号“勘亭”からこの書体を“勘亭流”と呼ぶようになる。それ以来、その他の芝居小屋もこぞってこの書体を用いる様になり、商売繁盛・大入満員を表す良い縁起を呼ぶ文字として今に受け継がれている。

この書体には三つの大きな特徴があり、

一、角を尖らせず丸みを帯びる事によって、興行に関わる全ての無事円満を願う。

二、客席が埋まるようにと墨黒々と隙間なくたつぷりと書き、大入り満員を願う。

三、お客を招き入れるように撥ねは外にはではなく内へ撥ね、興行の大当たりを願う。

この三つの特徴がある勘亭流は“書道”というより“絵”を書く感覚に近いともいわれ、書道の経験がなくても始めて頂けます。

#### ★御家(おいえ)流

(以下、アメバブログ京 angya「H23.1.22 顔見世「まねき看板」の書体「勘亭流」を編み出した岡崎屋勘六は、…」より引用)

鎌倉末~南北朝期に17代青蓮院門跡・尊円入道親王の興した青蓮院流の書体が、「御家流」として江戸期には幕府の公文書に用いられ、庶民の間にも普及した。

そして、この御家流書道を指南していた岡崎屋勘六(号「勘亭」)が江戸・中村座の看板を書いたのを契機に、その後、芝居の世界で「勘亭流」として持て囃(はや)される事となったと云う。



## ◎近況報告「10月に奥飛騨温泉郷へ行ってきた」伊丹谷五郎会員

★伊丹谷会員のお話

10月、奥飛騨温泉に行ってきた。泊ったのは槍見の湯「槍見館」、1泊2日、5名で行った。紅葉が素晴らしかった。槍見館の宿泊客は外国人（白人）が多かった。スタッフも外国人（アジア系）が多かった。

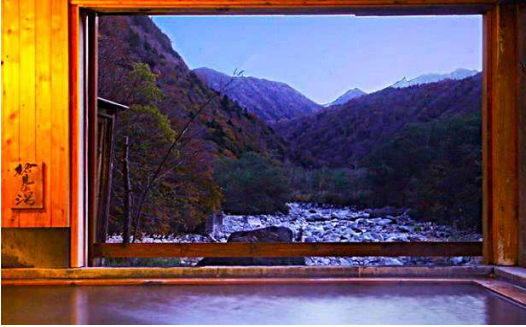
### ・槍見館全景（蒲田川沿い）

（画像引用元：ラクテントラベル「槍見の湯槍見館」より）



### ・槍見の湯（尖った山が見える）

（画像引用元：槍見館公式HPより）



### ・槍見館と槍ヶ岳位置図

（画像引用元：日本秘湯を守る会記事「槍見館」より）



### ・槍見館位置（蒲田川沿い）

（地理院地図より作成）



## ●奥飛騨温泉郷

（以下、文・画像とも奥飛騨温泉郷国民保養温泉地計画書（環境省）より引用）



奥飛騨温泉郷とは、市町村の中で日本一広大な面積を有する岐阜県高山市の北東側に位置し、平湯温泉・福地温泉・新平湯温泉・椿尾温泉・新穂高温泉の5つの温泉地の総称である。平湯温泉には、武田信玄の軍勢が飛騨に攻め入った際に、老猿（白猿）が湯だまりで傷を癒すのを見て入浴し鋭気を養ったとの伝説があり、江戸時代には、北陸の大名が参勤交代の道中で疲れを癒した。また、福地温泉には、平安時代、村上天皇がおしのびで湯治に訪れていたとの伝説があり、その名残として「天皇泉」の名称がある。（中略）

奥飛騨温泉郷は、源泉数、温泉湧出量も多く自然景観に恵まれた温泉地として、昭和39年平湯温泉、昭和43年に他の4つの温泉地を奥飛騨温泉郷として国民保養温泉地に指定、平成29年からは2つの国民保養温泉地を統合し、奥飛騨温泉郷国民保養温泉地としている。

### ★飛騨の地名由来

（以下、実業出版社人名地名面白雑学「飛騨の由来」より抜粋引用）

岐阜県高山市の東部に位置する奥飛騨温泉郷は、平湯・新平湯・福地・椿尾・新穂高の5つの温泉で成り立っている。しかし、一口に奥飛騨と言っても、奥飛騨温泉郷の入り口にあたる平湯温泉と、最も奥に位置する新穂高温泉は17kmも離れており、飛騨の広さを実感する。

「飛騨」という地名の由来は、山が袈をなして連なっているからとも、田舎を意味する「ひな」に由来するともいわれる。（中略）この「ひだ」に「飛騨」という漢字があてられるようになったのは飛鳥時代のことである。『続日本紀』によると、大宝2年(702)4月8日に飛騨国が神馬を献じ、これを瑞祥として天下に大赦を行った。そして、これ以降「ひだ」は「飛騨」と書かれるようになったという（騨は馬のこと）。

以上

次回 第401回 新年例会 2025年2月12日（水）  
会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00